

正倉院展講座

| | | |
|-----------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 10月31日(土) | 奈良時代の真珠を科学する 正倉院の歴史—宝物の伝世・保存を中心に— | 三重大学教授 和田 浩爾 |
| 11月7日(土) | 御冠残闕について 銀壺とその周辺 | 元宮内庁正倉院事務所長 橋本 義彦 宮内庁正倉院事務所長 米田 雄介 |
| 11月14日(土) | 麻布山水図について 献物几・献物箱とその展開 | 工芸室長 阪田 宗彦 普及室長 中島 博 学芸課長 光森 正士 |

午後1時30分より、講堂で開催。午後1時開場、先着120名限り。聴講無料。

ギャラリー・トーク

| | | |
|-----------|---------|------------|
| 10月14日(水) | 正倉院宝物模造 | 工芸室長 阪田 宗彦 |
| 12月9日(水) | 春日曼荼羅 | 美術室長 河原 由雄 |

午後2時より、陳列室で開催。入館者は聴講自由。原則的に毎月第2水曜日に開催。

文化財に親しむための入門教室

| | | |
|-----------|---------------------------|------------|
| 10月10日(土) | 正倉院宝物に親しむための特別講座 (中・高生対象) | 工芸室長 阪田 宗彦 |
| 12月12日(土) | 日本の書 | 主任研究官 西山 厚 |

午前10時より、12時まで。講堂および陳列室で。

以後平成5年3月まで、毎月第2土曜日に開催。

小学校5・6年生および中学生を対象とする。保護者同伴可。参加無料。

参加申し込み方法

応募期間 実施日の1か月前まで

応募方法 往復はがきに、住所・氏名・学校・学年・電話番号・保護者と一緒にどうかを記入して、博物館あて郵送または持参する。

また、学校やグループの団体で参加される方は、封書で返信用はがきを添えて、団体名、リーダーの住所・氏名・電話番号、参加者の名簿(住所・氏名・学校・学年)、付添者の有無を記入して、博物館あて郵送または持参する。

平常展 開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館)

観覧料金

| 正倉院展 | | 大人 | 高・大生 | 小・中生 |
|------|----|-----|------|------|
| | | 一般 | 790 | 450 |
| | 団体 | 530 | 250 | 130 |
| | | | | |

| 平常展 | | 大人 | 高・大生 | 小・中生 |
|-----|----|-----|------|------|
| | | 一般 | 400 | 130 |
| | 団体 | 200 | 70 | 40 |
| | | | | |

(団体は責任者が引率する20名以上。ただし正倉院展は、土・日・祝日は団体の取扱いを致しません。)

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月の各1日に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒(62円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771

奈良国立博物館

第3号

奈良 国立博物館 だより

平成4年 10・11・12月



墨画仏像
(麻布菩薩)

「正倉院展」
より

正倉院展

10月31日(土)～11月16日(月)

会期中無休

午前9時～午後5時
(入館は4時30分まで)

正倉院には、光明皇后が東大寺大仏に献じた聖武天皇の遺品をはじめとする、奈良時代の文化の香を伝える宝物が守り伝えられており、その中から毎秋さまざまな種類の品々が選ばれて出陳されるが、今年は初公開の20件を含む75件の展観となる。

『御冠残欠』は、聖武天皇と光明皇后が使用された冠についていた金や真珠などの多数の飾りで、全容が初めて公開される。『国家珍宝帳』記載品の中には、「山水夾纈屏風」「樹木羊・樹木象夾纈屏風」などがある。絵画作品としては「麻布菩薩」

「麻布山水」および「楓蘇芳染鉢槽琵琶」の押撥に描かれた騎象胡楽図など代表的なものが並ぶ。雄大な「銀壺」や精緻な「紅牙撥鍔尺」など高度な技術による工芸品や、華麗な彩色の施された「粉地彩絵八角几」「緑地彩絵箱」など、いかにも正倉院らしい品々に興味はつきないところである。

主な展示品

| | 本館 | | 新館 | | 十一月 |
|---------|--|---|--|--|---|
| | 工芸 | 彫刻 | | | |
| 十 月 | 9月29日(火)～10月25日(日) 特集展示「正倉院宝物模造」 紫檀木画基局、白石火舍、黒柿両面厨子、紫檀金銀絵書几、杜家立成、新羅墨、天平筆、黒漆三合鞘刀子、斑犀把白牙鞘金銅莊横刀、黒作横刀、子日手辛鋤・附粉地彩絵椅几(以上、当館)、金銀平脱皮箱(セゾン美術館) | 10月1日(木)～10月25日(日) 仏教彫刻の時代的変遷 【飛鳥時代】◎銅造誕生釈迦仏像(正眼寺)、◎銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺)、◎銅造觀音菩薩立像(法起寺)、【白鳳時代】◎銅造誕生釈迦仏像(悟真寺)、◎木造勢至菩薩立像(法隆寺)、◎銅板法華說相圖(長谷寺)【奈良時代】◎銅造弥勒菩薩半跏像(東大寺)、◎乾漆十大弟子像(興福寺)、◎乾漆緊那羅立像(興福寺)、◎木心乾漆圓僧正坐像(岡寺)、◎木心乾漆梵天立像(秋篠寺)◎伎樂面(東大寺)、◎木心乾漆光背(聖林寺)、◎銅造光背(東大寺)【平安時代】◎木造藥師如來立像(元興寺)、◎木造藥師如來坐像(当館)、◎木造弥勒如來坐像(東大寺)、◎木造十一面觀音立像(勝林寺)、◎木造十一面觀音立像(当館)、◎木造十一面觀音立像(海住山寺)、◎木造如意輪觀音坐像(当館)、◎木造十二神將立像(東大寺)、◎板彫十二神將像(興福寺)、◎木造金剛力士立像(財賀寺)、平安～鎌倉の舞樂面(東大寺・手向山神社・春日大社・当館)【鎌倉時代】◎木造不動明王坐像(正寿院)、◎木造千手觀音立像(妙法院)、◎木造釈迦如來坐像(東大寺)、◎木造地藏菩薩立像(春覺寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、◎木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造馬頭觀音立像(淨瑠璃寺)、◎行道面(淨土寺)、◎木造閻魔王倚像(金剛山寺)、銅造不動明王立像(天ヶ瀬組)、◎木造大津皇子坐像(薬師寺)、◎平安～鎌倉銅造藏王權現立像(大峯山寺)【南北朝時代】木造四天王立像(靈山寺) | 10月30日(金) 休館 | 正倉院展 10月31日(土)～11月16日(月) | 11月17日(火)～30日(月) 休館 |
| 十一 月 | 10月1日(木)～10月25日(日) 【古代寺院の形態】◎東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、方形三尊博仏一橋寺出土—(当館)、方形三尊石仏—華倉寺出土—(南法華寺)、◎鳳凰文壇(南法華寺)、塑像頭部一川原寺裏山出土—(明日香村)、塑造菩薩像頭部一定林寺出土—(当館)、塑造人物頭部一本藥師寺出土—(薬師寺)、百濟出土古瓦、高句麗出土古瓦(当館)、法隆寺出土古瓦(法隆寺)、川原寺出土古瓦(奈良国立文化財研究所)、紀寺出土古瓦(当館)、河内寺出土古瓦(大阪府教育委員会)、唐招提寺出土古瓦(唐招提寺)、秋篠寺出土古瓦(秋篠寺)、【墳墓の変遷】北和城南古墳出土品(当館)、群馬苗ヶ島古墳出土品(当館)、◎山代忌寸真作及妻墓誌(当館)、行基舍利瓶断片(当館)、◎出雲荻谷古墳出土品(当館)、【経塚の遺宝】◎鍍銀経箱—金峯山経塚出土—(金峯神社)、銅經筒—平治元年銘—(当館)、瑠璃銅板製經筒(当館)、◎藤原道長願経(金峯神社)、◎紙本墨書法華経—三重・朝熊山経塚出土—(金剛證寺)、銅板法華経—大分・長安寺旧蔵—(当館)、瓦経—福岡・飯盛山経塚出土—(当館)、伝佐賀県背振山出土経塚遺物、◎線刻藏王權現鏡像(金峯山寺)、◎伝福岡県出土銅經筒・滑石外筒(当館)、◎伝福岡県出土経塚遺物(当館) | 御冠残欠より 粉地彩絵八角几 | 御冠残欠 粉地彩絵八角几 | 楓蘇芳染螺鈿槽琵琶 | |
| 十二 月 | 10月26日(月)～平成5年3月末日 休館 | 12月1日(火)～12月25日(金) 仏教彫刻の種類 【如来】◎銅造誕生釈迦仏像および銅造灌仏盤(東大寺)、◎銅造藥師如來立像(般若寺)、◎銅造阿弥陀三尊像(東京国立博物館)、◎木心乾漆如來坐像(西大寺)【菩薩】◎銅造觀音菩薩立像(法隆寺)、◎木造地藏菩薩立像(融念寺)、◎木造明星菩薩立像(弘仁寺)【明王】◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造愛染明王坐像(当館)【天】◎木造十二神將立像(室生寺)、◎木造持國天立像(東大寺)、◎木造多聞天立像(東大寺)【垂迹神】◎銅造藏王權現立像(当館) | 12月1日(火)～12月25日(金) 特集展示「觀音」 補陀洛山曼荼羅(聖林寺)、◎白衣觀音像(当館)、◎如意輪觀音像(当館)、◎十一面觀音像(太山寺)、十一面觀音像(能満院)、千手觀音二十八部衆像(千光寺)、覓禪抄(聖觀音)・不空羂索・勸修寺) 特集展示「春日曼荼羅」 鹿島立神影図(当館)、◎春日本迹曼荼羅(宝山寺)、春日本地仏曼荼羅(地藏、当館)、◎春日淨土曼荼羅(能満院)、春日赤童子像(植楓八幡神社)、春日社寺曼荼羅(当館)、春日宮曼荼羅(南市町) 【その他】◎仏涅槃図(達磨寺) ◎普賢菩薩像(当館) | 12月1日(火)～12月25日(金) ◎六祖惠能伝(延暦寺)、◎弘法大師御勘文(当館)、◎聖德太子伝曆(本願寺)、◎造東大寺司請經解(当館)、◎弘福寺牒並大和国判(当館) | 12月1日(火)～12月25日(金) ◎鉄宝塔(西大寺)、◎金銅透彫舍利容器(西大寺)、◎金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、◎黒漆舍利厨子(般若寺)、◎銅三具足(聖衆來迎寺)、◎金銅錫杖頭、◎金銅草花文磬(峰定寺)、◎金銅蓮華形磬(赤松院)、◎黒漆螺鈿卓(東大寺)、金銅一面器(西大寺)、◎金銅迦陵頻伽文透彫華鬘(中尊寺)、◎金銀鍍宝相華文透彫華籠(神照寺)、◎蓮草唐草絵経箱(当館)、◎金銅透彫経筒(万德寺)、◎金銅密教法具(巖島神社)、◎金銅四天王五鈷鉢(弥谷寺)、◎黒漆金銅装戒体箱(金剛寺)、◎線刻阿弥陀如來鏡像(当館)、十一面觀音懸仏(当館)、◎千体阿弥陀懸仏 |

●国宝、●重要文化財。 展示品は都合により一部変更する場合があります。